

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H010A105		リハビリテーション医学・概論(Rehabilitation Medicine)					生体分野																																																																																																																										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・歴	担当教員																																																																																																																											
必修	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 片岡 昌志 E-mail mkataoka@oita-u.ac.jp 内線 7457																																																																																																																											
授業概要 リハビリテーションの概念および具体的な方法、患者へのアプローチの方法を理解することを目的とする。具体的な教育内容として、リハビリテーションの概念、医学的、心理的、教育的、職業的分野のリハビリテーションについて、対象者が家庭復帰・社会復帰を目的とするにあたり、その支援のあり方、社会的資源の活用について学習する。さらに機能障害とこれに基づく能力障害や社会的不利を理解し、これらの障害に対する医学的リハビリテーションについて理解することを目的とする。																																																																																																																																	
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 リハビリテーションの理念を説明できる。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 障がいについて説明できる。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 疾患概念を説明できる。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 機能障害とこれに基づく能力障害や社会的不利を説明できる。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5 障がいに對する医学的リハビリテーションについて説明できる。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 リハビリテーションの理念を説明できる。	○	○	○								目標2 障がいについて説明できる。	○	○	○								目標3 疾患概念を説明できる。	○	○	○								目標4 機能障害とこれに基づく能力障害や社会的不利を説明できる。	○	○	○								目標5 障がいに對する医学的リハビリテーションについて説明できる。	○	○	○								目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																							
目標1 リハビリテーションの理念を説明できる。	○	○	○																																																																																																																														
目標2 障がいについて説明できる。	○	○	○																																																																																																																														
目標3 疾患概念を説明できる。	○	○	○																																																																																																																														
目標4 機能障害とこれに基づく能力障害や社会的不利を説明できる。	○	○	○																																																																																																																														
目標5 障がいに對する医学的リハビリテーションについて説明できる。	○	○	○																																																																																																																														
目標6																																																																																																																																	
目標7																																																																																																																																	
目標8																																																																																																																																	
目標9																																																																																																																																	
目標10																																																																																																																																	
授業の内容 - なぜリハビリテーションが必要か? - 障がい ノーマライゼーション - リハビリテーション評価学Ⅰ - リハビリテーション評価学Ⅱ - リハビリテーション治療学総論 - 運動器疾患(変形性関節症、骨折) - 脳血管疾患Ⅰ - 脳血管疾患Ⅱ - 脊髄損傷 - 切断、義肢装具 - 神経筋疾患 - 免疫不全、自己免疫性疾患 - 関節リウマチ - がんリハビリテーション - 呼吸・循環障がい、社会資源																																																																																																																																	
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ 症例検討を行います。課題に対してレポート提出を課します。 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 ○ D:知識の活用・創造 ○					工夫	その他の																																																																																																																										
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修 事後事後学修(30h) 学修																																																																																																																																
教科書	リハビリテーション医学テキスト(改訂第4版) 南江堂																																																																																																																																
参考書	現代リハビリテーション医学(改訂第3版) 金原出版 標準整形外科学(第13版) 医学書院																																																																																																																																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																					
	レポート	10%	○	○	○	○	○																																																																																																																										
	試験	90%	○	○	○	○	○																																																																																																																										
注意事項	レポートは必ず提出してください。																																																																																																																																
備考	【地域創生教育科目】																																																																																																																																
リンク	URL																																																																																																																																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)										
H010A403		地域リハビリテーション学(Community-based Rehabilitation Medicine)				生体分野										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
必修	2	4	福祉健康科学部	後		氏名 片岡 鼎志 E-mail mkataoka@oita-u.ac.jp 内線 7457										
授業の概要 超高齢社会を迎え、高齢者の割合が増加してきた。さらに高齢者の独り暮らしが多くなり、「病気になるっても医療機関を受診できない」「病気になるって、自宅生活で生活ができない」など多くの問題が見えてきた。医療・福祉専門職は、地域で生活する人々のために何ができるかを真剣に考えなければならない。この科目では「地域」での問題を取り上げ、とりわけ制度の確立と役割、リハビリテーションの位置づけの再確認、さらに高齢者医療について学ぶ。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標1	地域リハビリテーションの体制を説明できる					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	地域リハビリテーション活動支援事業を説明できる					○	○	○								
目標3	介護保険制度を説明できる					○	○	○								
目標4	地域支援事業について説明できる					○	○	○								
目標5	介護予防事業や健康増進への取り組みについて説明できる					○	○	○								
目標6	住環境整備についての支援について説明できる					○	○	○								
目標7	障害者スポーツの役割について説明できる					○	○	○								
目標8	高齢者に多い疾病について病態生理を説明できる					○	○	○								
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 地域リハビリテーションの考え方																
2 制度の変遷																
3 介護保険サービス概論																
4 地域包括ケアシステム概論																
5 地域支援事業概論																
6 介護保険サービス各論																
7 介護予防事業、健康増進へのとりくみ																
8 住環境整備																
9 障害者スポーツ																
10 地域における支援サービスの実態																
11 高齢者医療Ⅰ																
12 高齢者医療Ⅱ																
13 高齢者医療Ⅲ																
14 高齢者医療Ⅳ																
15 高齢者医療Ⅴ																
ラ イ ク ニ ン グ グ ル ー プ	A:知識の定着・確認 ○ 症例を提示し、グループ討議と意見交換し、レポートを提出 B:意見の表現・交換 ○ 小テストを実施し、フィードバックする C:応用志向 ○ D:知識の活用・創造 ○					工夫	その他の									
時間外学習の内容と時間の目安	準備 事前学習 1.5 h 事後学習 1.5 h															
教科書	配布プリント															
参考書	地域リハビリテーション学テキスト(改訂第3版) 細山多穂 監修 南江堂 2018年 地域リハビリテーション学(第2版) 重森健太 編集 羊土社 2019年 地域リハビリテーション論(Ver. 7) 大田仁史 編集 三輪書店 2018年															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
期末テスト		100%	○	○	○	○	○	○	○	○						
注意事項	講義の順番は多少前後する可能性がある															
備考																
リンク	URL															

担当教員の 火務経験の有無	○
教員の実務 経験	臨床経験あり

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)										
H020B221		内部障害とリハビリテーション(Internal medicine and rehabilitation)					生体分野										
*大分を創る科目																	
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
選択(理学療法コースは必修)	2	2年	福祉健康科学部	前期		氏名 児玉											
						E-mail kodm@oita-u.ac.jp 内線 6113											
授業の概要 内科領域における主要疾患の概念、病因、症状、診断法、治療法などを概説する。理学療法・心理学・社会福祉学の専門科目を学ぶ上で必要な疾病に対する医学的な知識を理解し、多面的視野と総合的判断力を身につけることを目標とする。消化器疾患・循環器疾患・呼吸器疾患・神経疾患・内分泌異常・糖代謝異常・膠原病・腎臓疾患の主な疾患について病態、症状、治療、予後などを学習する。 リハビリテーションを行うに当たり、原疾患としての内科学的病態、発生機序、症候を理解するとともに、内臓疾患に関する生理、病態生理を理解し、疾患の予防を学ぶ理解する。これによりリハビリテーションの目的、目標を明確にする。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 内部障害に関連する循環器系、呼吸器系疾患に関する病態および臨床像を理解する								○	○	○							
目標2 内部障害に関連する消化器系、腎泌尿器系疾患に関する病態および臨床像を理解する								○	○	○							
目標3 内部障害に関連する内分泌、血液疾患、膠原病に関する病態および臨床像を理解する								○	○	○							
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 循環器疾患① 心不全																	
2 循環器疾患② 弁膜症																	
3 循環器疾患③ 先天性心疾患																	
4 循環器疾患④ 心電図、不整脈																	
5 循環器疾患⑤ 虚血性心疾患																	
6 呼吸器疾患① 呼吸機能																	
7 呼吸器疾患② 閉塞性換気障害、拘束性換気障害																	
8 呼吸器疾患③ 呼吸器感染症																	
9 消化器疾患① 消化管																	
10 消化器疾患② 肝胆膵																	
11 血液疾患																	
12 腎疾患①																	
13 腎疾患②																	
14 内分泌代謝疾患																	
15 アレルギー・膠原病																	
ラーニング	A:知識の定着・確認	○ スライドによる画像、動画の供覧。また具体的症例を通じて病態、疾患を考えさせる項を設ける。重要領域において、疾患に関する症例検討、レポートを課す。実際の症例について調べることににより病態、疾患に関する理解を深める。					工夫その他の	講義に関しては、理解しやすいように各分野のプリントを作成し配布する。教科書ではわかりにくい点をより理解しやすいように工夫する。また重要項目は空欄にして、各自調べることににより理解度を高めやすいようにする。									
準備時間	準備	次回講義内容の領域について、教科書、参考書を用いて概要を把握する(15h)。															
時間外学習の内容と時間の目安	事後	講義された内容に関して、教科書、参考書などをもちい配布された資料の空欄を埋めることにより完成させ、より知識の理解、定着を行う(15h)。															
教科書	内科学 第3版(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 医学書院																
参考書	内科診断学 第2版 医学書院、新臨床内科学[縮刷版](第9版) 医学書院、内科学 (第10版) 朝倉書店、「病気が見える」シリーズ、MEDICMEDIA																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	症例検討レポート	10%	○	○	○												
	期末試験	90%	○	○	○												
すべてのレポートおよび期末試験の合格を単位取得の条件とする。																	
注意事項	講義に使うスライドや資料は実際の症例を用いている場合が多い。不用意に写真にとったり複写をして、配布したり、ネットにあげるなどが決していないようにして下さい。																
備考	特になし 【地域創生教育科目】																
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	医師、内科おもに消化器内科またプライマリケア診療を大分大学医学部附属病院を中心に行ってきた。医師としての勤務歴は30年。
実務経験を いかした教 育内容	医師、内科医師として実際に行ってきた診療、症例経験を講義内容に盛り込むことにより、より実地に近い実践的な知識を与えることができる。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)										
H020B222		運動器疾患とリハビリテーション(Musculoskeletal disorders and Rehabilitation)				生体分野										
*大分を創る科目																
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択(理学療法コースは必修)	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 片岡 晶志 E-mail mkataoka@oita-u.ac.jp 内線 7457										
授業概要 運動器疾患に対する社会的認知度が増すにつれ、その治療法も高度に専門化してきている。正確な診断をつけ適切な治療法を選択し高度な技術を正確に施すためには、運動器に対する解剖・生理学などの基礎知識に始まり、治療のゴール設定やそれを達成する手術法・リハビリテーションなど幅広い知識が求められる。運動器疾患に対する治療法の選択基準などを実際の臨床症例を基に学び、科学的な判断力を養うとともに最新の治療法の進歩についての知識を身につけることを目的とする。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標1	運動器疾患の基礎となる骨・関節、筋・神経の解剖、生理、生化学、病理について説明できる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標2	運動器疾患の症状、徴候、病態生理、診断、治療法、予後について説明できる。					○	○	○	○							
目標3	知識、技術のみでなく、医療人としての心がまえ、態度を説明できる。					○	○	○	○							
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 整形外科疾患各論：肩関節・肘関節																
2 整形外科疾患各論：手関節および手指																
3 整形外科疾患各論：頸椎																
4 整形外科疾患各論①：胸椎・腰椎																
5 整形外科疾患各論②：股関節																
6 整形外科疾患各論：膝関節																
7 整形外科疾患各論：足関節・足趾																
8 整形外科外傷学：軟部組織損傷、骨折・脱臼																
9 整形外科外傷学：脊椎・脊髄損傷、末梢神経損傷																
10 整形外科基礎：骨・軟骨の生化学																
11 骨代謝性疾患																
12 関節リウマチ																
13 小児整形外科																
14 スポーツ傷害																
15 骨軟部腫瘍 四肢切断と義肢および補装具																
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ 1) 理解度、到達度を確認するためテストを3回おこない、フィードバックする。 B:意見の表現・交換 ○ 2) 疾患概念の理解を最重要目標におく。そのために、症例検討で、活発な意見の発表を求める。 C:応用志向 ○ D:知識の活用・創造 ○					工夫	その他の									
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習 症例検討に該当する範囲の予習をおこなうこと(15h) 事後学習 復習を必ずおこなうこと(30h)															
教科書	標準整形外科学(第14版)井藤栄二他 編集 医学書院 2020年															
参考書																
成績評価の方法	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
テスト						100%	○	○	○							
5回講義がおわるとテストを行います。																
注意事項	予習、復習を行うこと。症例検討のレポートは必ず提出すること。レポートをすべて提出していない場合は、テストでの評価をおこないません															
備考	授業中に、スライドをつかって実際の症例を紹介する。 【地域創生教育科目】															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	臨床に現在も携わっている
実務経験を いかした教 育内容	実臨床での症例を供覧する

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H0208224		神経疾患とリハビリテーション(Neurological disease and Rehabilitation)				生体分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
選択(理学療法コースは必修)	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 上田 徹 E-mail kanida@oita-u.ac.jp 内線						
授業の概要 神経疾患により生じる機能障害や運動障害はリハビリテーションにおいて多くの割合を占めている。そのため、神経疾患について専門的知識を深め、神経疾患領域におけるリハビリテーションの役割を理解することが重要である。授業では、基礎となる神経症候学を学び、その上でリハビリテーションの適応となる様々な神経疾患の症状、病態、治療について概説する。												
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照)												
目標1	神経症候の特徴、病態生理を理解し説明できる。											
目標2	神経疾患の特徴、診断のポイントを理解し、その治療について説明できる											
目標3	神経疾患に対するリハビリテーション効果を理解し、患者の生活にどのように支援できるかを説明できる。											
目標4	さまざまな専門職とのかかわりの中で、リハビリテーションの観点からどのようなリーダーシップを発揮できるかを説明できる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	脳解剖と神経画像											
2	神経症候学I(意識障害、大脳皮質、大脳基底核、辺縁系)											
3	神経症候学II(脳幹、脳神経、小脳)											
4	神経症候学III(運動、感覚、自律神経)											
5	脳血管障害I											
6	脳血管障害II											
7	脳腫瘍											
8	頭部外傷											
9	感染性疾患											
10	脱髄性疾患											
11	神経変性疾患I											
12	神経変性疾患II											
13	筋疾患I											
14	筋疾患II											
15	小児神経疾患											
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	☐ 演習、小テスト、グループ・ペアでの共同作業 ☐	工夫	その他	なし							
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修 事後 学修	参考文献の情報を必要に応じて予習(15時間) 小テストや配布資料を用いて復習する(15時間)										
教科書	講義プリントを授業中配布。スライドを使って説明											
参考書	脳・神経、病気がみえる vol.7, MEDIC MEDIA出版 2011											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	小テスト	15%	☐	☐								
	最終試験	85%	☐	☐	☐	☐						
	すべての小テストおよび最終試験の合格が単位取得の条件とする。											
注意事項	なし											
備考	小テストの解説を割り当てられたグループで解説する。											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	医学部附属病院での医師（脳神経外科学）
実務経験を いかした教 育内容	脳神経外科医としての実務経験をもとに、神経症候学、神経疾患学、リハビリテーション学を解説する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)											
H010A303		福祉サービスの組織と経営(Administration of Social Welfare Institution)				社会分野											
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員											
必修	2	3年	福祉健康科学部	後期		氏名 矢野 茂生 E-mail 内線											
授業の概要 近年の福祉サービスは「新たな産業」として位置づけられている。社会福祉基礎構造改革、介護保険制度の創設などを経て、平成28年3月には福祉サービスの経営主体として位置づけられてきた社会福祉法人のあり方を中心に社会福祉法の改正が行われた。このような背景は福祉サービスの規制緩和（民間企業も含めた様々な主体の参入）を進めた。しかし、現実には既存の福祉サービスのみでは解決しがたい、もしくは「はざま」にある多くの社会課題がある。 本講義では福祉サービスを提供している組織の種類や特徴を学び、サービス提供機関が備えるべき経営の視点（人事管理・労務管理・経営管理等）について具体的な事例を用いながら学習する。また、社会課題を広く知り、考えていく中でこれからの福祉サービスのあり方についても検討できるようにする。																	
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)											
目標1	福祉サービスの提供に関する歴史的な流れを説明することができる					1	2										
目標2	福祉サービスを提供する組織や団体について分類し、その特徴を説明できる					3	4										
目標3	福祉サービス組織の経営や管理運営における基本理論が説明できる					5	6										
目標4	利用者中心の福祉サービスについて検討し、説明できる					7	8										
目標5	社会課題と福祉サービスについて考え、これからの時代の福祉サービスを検討することができる					9	10										
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 【ブロック1】オリエンテーション、福祉サービスの理解：本講義の概要と福祉サービスとは何かを知る																	
2 福祉サービスの成り立ちや変遷と関連する法律や制度について調べる																	
3 【ブロック2】福祉サービスの提供主体となる組織や団体：福祉サービスを提供する組織や団体について調べる（1）：公的機関																	
4 福祉サービスの提供主体となる組織や団体（2）：社会福祉法人																	
5 福祉サービスの提供主体となる組織や団体（3）：NPO法人、その他法人																	
6 組織の戦略と事業計画と運営管理																	
7 【ブロック3】福祉サービスの利用者：福祉サービスを利用する利用者について「児童」「障害」「高齢者」に分けて調べる 福祉サービスの種類																	
8 福祉サービスの利用者（1）児童福祉：社会的養護を中心にこどもたちの福祉サービス実践と経営について 児童福祉法関係																	
9 福祉サービスの利用者（2）障害福祉：障害を抱える方々に対する福祉サービス実践と経営について 障害者総合支援法関係																	
10 福祉サービスの利用者（3）高齢者福祉：高齢者に対する福祉サービス実践と経営について 介護保険法関係																	
11 【ブロック4】事業運営の課題と新しい福祉サービス：事業計画、人事労務管理、財務管理、社会的起業家 上記3つの福祉サービスから課題を抽出【課題1】																	
12 福祉サービスの課題分析：ブロック3で扱った3つの福祉サービスについて課題を分析し、利用者中心のサービスについて提案する																	
13 福祉サービスにおける事業計画・人事労務管理・財務管理について、基本的事項を知る																	
14 社会課題について考える：福祉サービスの限界・社会課題・市場について論理的な思考法を用いながら検討できる【課題2】																	
15 本講義のまとめ																	
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表明・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	○演習、講義ごとの自己評価 ○ペア、小グループでのディスカッション ○		工夫 その他の		実践現場の資料 ロジックモデル プレゼンテーション											
時間外学習	準備 配布資料やインターネット、参考文献等での情報収集(15h)																
事後 講義時に配布する資料に応じて次時の準備をする(30h)																	
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントを使用する。																
参考書	参考書は指定しない。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
評価の方法及び評価割合	福祉サービスの課題【課題1】					20%	○	○	○								
	社会課題の抽出【課題2】					20%			○	○							
	プレゼンテーション【課題3】					30%				○	○						
	最終課題【課題4】					30%				○	○	○					
すべての課題提出および発表を単位取得の条件とする																	
注意事項	本講義の資料を整理するファイルを各自ご準備ください(A4資料)																
備考																	
リンク	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	社会福祉士 児童自立支援施設自立支援専門員 NPO法人の運営
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	保健師 看護師 臨床心理士 公認心理士
実務経験を いかした教 育内容	福祉サービス事業体にいる様々な資格保有者から、現場の話を聞く

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)									
H010A304		社会心理学(Social psychology)				心理分野									
*大分を創る科目															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員									
必修	2	3年	福祉健康科学部	後期		氏名 中里 直樹									
						E-mail nakazato-naoki@oita-u.ac.jp 内線 7530									
授業の概要	日常生活の事例を引き合いに出しながら、対人認知・対人魅力、リーダーシップ、援助行動、文化など、社会心理学の理論やモデルの考察を試み、社会的な問題の解決に必要な知識と技能を習得する。														
具体的な到達目標															
DP等の対応(別表参照)															
目標1	社会心理学の意義と研究法を理解し、説明できる。					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標2	社会心理学の理論やモデルを、日常生活における自身の社会的行動と他者への支援活動に関係づけることができる。					○		○							
目標3	社会心理学の理論やモデルに基づき、社会的な問題の解決方法を提案できる。					○	○								
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容															
1	社会心理学の定義および研究法														
2	援助行動とソーシャル・サポート														
3	社会的自己 (1): 自己知識と自尊心, 自己意識														
4	社会的自己 (2): 自尊心の維持・高揚のメカニズム, 自己呈示														
5	社会的態度 (1): 態度の形成と変容														
6	社会的態度 (2): 説得的コミュニケーション														
7	社会的認知 (1): 対人認知と原因帰属														
8	社会的認知 (2): 推論・帰属の誤りとバイアス														
9	対人魅力と対人関係 (1): 初期的関心														
10	対人魅力と対人関係 (2): 対人関係・夫婦関係の発展・持続・危機														
11	集団・組織 (1): 集団の特徴と機能, 集団への同調														
12	集団・組織 (2): リーダーシップの理論, 服従と抵抗														
13	集団・組織 (3): 集団間葛藤, リーダーシップの実践														
14	文化・社会とWell-being (1): 個人主義・集団主義と文化的自己観														
15	文化・社会とWell-being (2): 社会生態学的環境とWell-being														
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	毎回の授業でミニッツペーパーに取り組んでもらい、提出を求める。ミニッツペーパーに書かれた質問に対しては、次回の授業時に返答する。適宜、グループ・ディスカッションも取り入れる。										工夫	その他の	
準備学修	配布資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する (15h)														
事後学修	授業で学習したことを配布資料等も用いて復習し、ミニッツペーパーを執筆する (15h)。15回分の授業内容の総合的理解及び考察に努め、社会心理学の理論及びその日常生活への適用について考察する (15h)。														
教科書	・教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。														
参考書	・「新・くらしの社会心理学」 小川一夫編著 (1995) 北大路書房 ・「英語で学ぶ社会心理学」 大坪康介, アダム・スミス著 (2017) 有斐閣ブックス ・Kassin, S., Fein, S., & Markus, H. R. (2020) Social Psychology (11th ed.). Wadsworth Publishing.														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	授業への積極的参加 (ライティング課題や質問など)	40%	○	○	○										
	期末試験	60%	○	○	○										
注意事項	なし														
備考	【地域創生教育科目】														
リンク	URL														

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
H010A404	コミュニティ心理学(Community Psychology)					心理分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・星	担当教員						
必修	2	4年	福祉健康科学部	後期		氏名 岩野卓 E-mail iwano-suguru@oita-u.ac.jp 内線 6108						
授業の概要	コミュニティ心理学は、個人と環境との相互作用や社会システム間の複雑な関係における事実や法則性を明らかにするとともに、そこで発生する個人、集団、及び社会システムの心理社会的な諸問題の効果的な解決・予防を目指す実証・実践科学である。本授業では、コミュニティ心理学の理論を踏まえ、コミュニティ心理学的アプローチの特徴やソーシャル・サポート・ネットワークを中心に、学校、企業、地域社会における実践例を取り上げながら考察を進める。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	コミュニティ心理学の知見を説明できる					○						
目標2	心理社会的な問題の対策を説明できる					○						
目標3	コミュニティ心理学アプローチを実践できる					○						
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	オリエンテーション コミュニティ心理学とは											
2	コミュニティ心理学の目的											
3	コミュニティ心理学の方法											
4	コミュニティ心理学の理論と研究①：危機と危機介入											
5	コミュニティ心理学の理論と研究②：ストレス研究											
6	コミュニティ心理学の理論と研究③：ソーシャルサポート研究											
7	コミュニティ心理学の理論と研究④：ネットワーク論											
8	理論と研究のまとめ											
9	グループワーク①：学校における問題											
10	グループ発表①											
11	グループワーク②：職場における問題											
12	グループ発表②											
13	グループワーク③：地域社会における問題											
14	グループ発表③											
15	まとめ											
ラーニング	A:知識の定着・確認	○	ライティングによる省察、グループによる調べ学習、グループ討議、グループ発表	工夫	その他の							
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	課題についての予習(15h)、グループ発表の資料作成(3h)										
	事後学習	配布資料の復習(15h)										
教科書	教科書は指定しない。適宜、資料を配布する。											
参考書	参考書は指定しない。											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	プレゼン	80%	○	○	○							
	グループ学習	20%	○	○	○							
注意事項	グループ発表をもって期末試験の代替とする(出席回数が基準に満たない場合は0点とする)											
備考	なし											
リンク	URL											

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	社会福祉協議会と共に地域コミュニティの支援・研究を実施。公認心理師。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)										
H020P302		老年心理学(発達心理学B)(Psychology of Aging (Developmental Psychology B))				心理分野										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 岩野卓 E-mail iwano-suguru@oita-u.ac.jp 内線 6108										
授業の概要 老年期は身体的な変化だけでなく、心理的な変化も多い時期です。この講義では、Bio-Psycho-Socialモデルの観点から老年期の心理的な特徴を学んでいきます。また、老年期特有の問題を理解し、円滑に交流するための技術や知識を紹介します。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10									
目標1	老年期の特徴を説明できる。					○	○	○	○							
目標2	老年期の問題を説明できる。					○	○	○	○							
目標3	老年期の問題を解決するための技術を実践できる。					○	○	○	○							
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 老年期と心理学																
2 身体の高齢化と心①																
3 身体の高齢化と心②																
4 認知機能の変化①																
5 認知機能の変化②																
6 実行機能と論理的思考																
7 認知症①																
8 認知症②																
9 中間テスト																
10 アセスメント(心理検査)																
11 死と家族について																
12 心理学的介入①																
13 心理学的介入②																
14 サクセスフル・エイジング																
15 老年心理学																
ラ イ ク ニ テ ィ ン グ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		○グループディスカッション、ロールプレイ、技法の実演と模倣、課題自己探索型のレポート、感想シートを利用した学生からの意見収集と教員からのフィードバック、老人体験キッドの使用、聞き取り調査		工夫 その他	映像資料の利用、学生のニーズに合わせた講義内容の調整										
時間外学習 の内容と時 間の目安	準備 学習	中間テストの準備(8h)														
	事後 学習	配布資料の復習(15h)														
教科書	資料を配布します。															
参考書	大川一郎・十田宣明・宇都宮博・日下菜穂子・奥村由美子 2011 シリーズ生涯発達心理学⑤エピソードでつかむ老年心理学 ミネルヴァ書房 谷口幸一・佐藤良一 2007 エイジング心理学「老い」についての理解と支援 北大路書房															
成績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10				
	中間テスト	35%	○		○											
	期末テスト	65%	○	○												
注意事項	受講生の希望や理解を反映するため、講義内容に関する感想や意見を毎回の講義で提出して頂きます。															
備考	特になし。															
リンク	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	臨床心理士として、精神科医療機関に勤務。公認心理師。
実務経験を いかした教 育内容	老年期に関する実際の臨床業務について紹介し、必要な技能や現代の問題について説明する。

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)														
H20P510		リハビリテーション心理学(Rehabilitation Psychology)				心理分野														
*大分を創る科目																				
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員														
選択/必修(心理学コース)	2	1	福祉健康科学部	後期		氏名 池永 恵美 E-mail m-ikemura@oita-u.ac.jp 内線 6107														
授業の概要	この講義では、障害やリハビリテーションに関する基本的知識を学習する。具体的にはリハビリテーションや障害とは何か、生活機能分類(ICF)による障害観、障害のある人の心理(障害受容)、障害者を取り巻く社会の状況等について学習することにより、障害のある人をサポート・支援するための基礎的知識を修得することを目的とする。																			
具体的な到達目標	DF等の対応(別表参照)										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	障害とリハビリテーションに関する基本的知識を習得する																			
目標2	ICFの概念について理解し、個々人の障害のある状態をICFのモデルに沿って説明できる																			
目標3	障害のある人と家族の心理について説明できる																			
目標4																				
目標5																				
目標6																				
目標7																				
目標8																				
目標9																				
目標10																				
授業の内容																				
1	障害とは																			
2	ICFの障害観(1)																			
3	ICFの障害観(2)																			
4	リハビリテーション/障害者の自立とは																			
5	障害者権利条約と合理的配慮																			
6	バリアフリーについて学ぶ(グループワーク)																			
7	偏見と差別																			
8	障害のある当事者の心理(1) 中途障害の場合(事例を読んで考える/グループワーク)																			
9	障害のある当事者の心理(2) 中途障害の場合(解説)																			
10	障害のある当事者の心理(3) 先天性障害の場合(事例を読んで考える/グループワーク)																			
11	障害のある当事者の心理(4) 先天性障害の場合(解説)																			
12	家族への支援 家族の障害受容																			
13	心理学的リハビリテーション(1) 動作法とは																			
14	心理学的リハビリテーション(2) 動作法実習																			
15	心理学的リハビリテーション(3) 動作法実習																			
ラーニング	A:知識の定着・確認	ミニッツペーパー、グループワーク				工夫その他の														
	B:意見の表現・交換																			
	C:応用志向																			
	D:知識の活用・創造																			
時間外学習の内容と時間の目安	準備	新聞やインターネットを用いて障害者や障害を取り巻く現代社会の問題について予習する(5h)。																		
	事後	授業で配布したプリントを用いて復習する(10h)。地域のバリアフリーの状況についてグループで調べレポートにまとめる(15h)。障害のある当事者や家族の著書等を読み、障害者や家族の心理について理解を深める(10h)																		
教科書	教科書は指定しない。授業中に配布するプリントを使用する。																			
参考書	上田敏著、「ICFの理解と活用」、きょうされん、2014 上田敏著、「リハビリテーションを考える」、青木書店、1983 南雲直二、「エッセンシャルリハビリテーション心理学」、荘道社、2006																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10								
	学期末試験	60%	○	○	○															
	レポート	10%	○	○																
	ミニッツペーパーの内容	30%	○	○	○															
注意事項	なし																			
備考	学習状況によって授業の内容の順番を変更することがある 【地域創生教育科目】																			
リンク	URL																			

担当教員の 実務経験の有無	○
教員の実務 経験	臨床心理士
実務経験を いかした教 育内容	事例や実習（動作法）をまじえながら講義を行う

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)										
H020P701		精神疾患とその治療Ⅰ(Mental Illness and Its Treatment Ⅰ)				心理分野										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	3	福祉健康科学部	前期		氏名 河野健太郎、秦野浩司、平川博文、釘宮毅、室長祐彰、工藤治彦 E-mail 内線										
授業の概要	精神医学では、精神疾患の成因や症状、治療に関する内容を学ぶ。本講では、精神医学の歴史や診断法・症状評価、主たる精神障害をみていくことにする。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 精神医学の総論を理解し、説明することができる。							○									
目標2 精神症状・状態像の理解と診断法について学び、説明することができる。								○								
目標3 精神科における代表的な疾患を理解し、説明することができる。							○									
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 精神医学概論(精神医学・医療の歴史、精神現象の生物学的基礎)																
2 精神障害の理解(精神障害の概念、精神疾患の診断分類)																
3 精神疾患の症状と診断、検査																
4 代表的な疾患とその症状、経過、予後(器質性精神障害)																
5 代表的な疾患とその症状、経過、予後(精神作用物質による精神および行動の障害)																
6 代表的な疾患とその症状、経過、予後(統合失調症)																
7 代表的な疾患とその症状、経過、予後(気分障害)																
8 代表的な疾患とその症状、経過、予後(神経症性障害・生理的障害・パーソナリティ障害)																
9 代表的な疾患とその症状、経過、予後(知的障害・発達障害)																
10 代表的な疾患とその症状、経過、予後(小児期・青年期の行動および情緒の障害)																
11 精神疾患の治療																
12 精神医療の動向																
13 精神科医療機関における治療																
14 精神科治療における人権擁護、精神保健福祉士の役割																
15 精神医療と保健、福祉の連携の重要性																
ラーニング	A:知識の定着・確認		適宜、質問やミニディスカッションなどを通し積極的に学生が考え学ぶことができるようにする。													
イニ	B:意見の表現・交換	○														
ティ	C:応用志向															
ング	D:知識の活用・創造															
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	必要に応じて教科書を読み、予習をする(15h)。														
	事後学修	授業で学習したことを復習する(30h)。														
教科書	最新精神保健福祉士養成講座『1 精神医学と精神医療』(中央法規出版、2021年)															
参考書	太山保之・上野武治編『学生のための精神医学』(医歯薬出版、2014年)															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	学期末試験	90%	○	○	○											
	授業への参加の積極度	10%	○	○	○											
注意事項	なし															
備考	なし															
リンク	URL															

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H020P701		精神医学Ⅰ(Psychiatry Ⅰ)				心理分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
必修(心理学コース)、選択(理学療法コース、社会	2	3	福祉健康科学部	前期		氏名 河野健太郎、栗野浩司、平川博文、釘宮毅、室長祐彰、工藤治彦 E-mail nobuy@oita-u.ac.jp 内線 5823						
授業の概要 精神医学では、精神疾患の成因や症状、治療に関する内容を学ぶ。本講では、精神医学の歴史や診断法・症状評価、主たる精神障害をみていくことにする。												
具体的な到達目標						OP等の対応(別表参照)						
目標1 精神医学の総論を理解し、説明することができる。						1	2					
目標2 精神症状・状態像の理解と診断法について学び、説明することができる。						3	4					
目標3 精神科における代表的な疾患を理解し、説明することができる。						5	6					
目標4						7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1 精神医学概論(精神医学・医療の歴史、精神現象の生物学的基礎)												
2 精神障害の理解(精神障害の概念、精神疾患の診断分類)												
3 精神疾患の症状と診断、検査												
4 代表的な疾患とその症状、経過、予後(器質性精神障害)												
5 代表的な疾患とその症状、経過、予後(精神作用物質による精神および行動の障害)												
6 代表的な疾患とその症状、経過、予後(統合失調症)												
7 代表的な疾患とその症状、経過、予後(気分障害)												
8 代表的な疾患とその症状、経過、予後(神経症性障害・生理的障害・パーソナリティ障害)												
9 代表的な疾患とその症状、経過、予後(知的障害・発達障害)												
10 代表的な疾患とその症状、経過、予後(小児期・青年期の行動および情緒の障害)												
11 精神疾患の治療												
12 精神医療の動向												
13 精神科医療機関における治療												
14 精神科治療における人権擁護、精神保健福祉士の役割												
15 精神医療と保健、福祉の連携の重要性												
ラーニング	A:知識の定着・確認	適宜、質問やミニディスカッションなどを通して積極的に学生が考え学ぶことができるようにする。					工夫	その他の				
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備	必要に応じて教科書を読み、予習をする(15h)。										
	事後	授業で学習したことを復習する(30h)。										
教科書	最新精神保健福祉士養成講座『1 精神医学と精神医療』(中央法規出版、2021年)											
参考書	太山保之・上野武治編『学生のための精神医学』(医歯薬出版、2014年)											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学期末試験	90%	○	○	○							
	授業への参加の積極度	10%	○	○	○							
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)				区分・【新主題】/(分野)						
H020P702		精神疾患とその治療Ⅱ(Mental Illness and Its Treatment II)				心理分野						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員						
選択	2	3年	福祉健康科学部	後期		氏名 堤 隆 E-mail tsutsumi@oita-u.ac.jp 内線 7477						
授業の概要 精神医学では、心の病気の成因や症状、治療に関する内容を学ぶ。 本講では、精神疾患別の症状・治療法をみていくことにする。												
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照)												
目標1	精神医学の各論を述べるができる					1	2					
目標2	精神障害の様々な治療法について述べるができる					3	4					
目標3	精神医療の実状やチーム医療について述べるができる					5	6					
目標4						7	8					
目標5						9	10					
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	神経症性障害											
2	ストレス関連障害および身体表現性障害											
3	摂食障害											
4	睡眠障害											
5	パーソナリティ障害											
6	精神遅滞											
7	心理的発達障害											
8	小児期および青年期の精神障害											
9	精神科薬物療法											
10	精神療法											
11	精神科リハビリテーション											
12	身体療法、環境・社会療法											
13	精神科医療機関の治療構造および専門病棟											
14	精神科治療における人権保護、連携の重要性											
15	まとめ											
ラ イ ク テ ニ ン グ	A:知識の定着・確認		○学修成果物の作成		工 夫	その他の						
時間外学修 の内容と時 間の目安		準備 テキストを事前に読んでおく (10h)										
		事後 教材を用いて復習する (10h)										
教科書		教科書を指定しない										
参考書		太田保之・上野武治、「学生のための精神医学」(医書薬出版)2014、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、新・精神保健福祉士養成講座「精神保健の課題と支援」(中央法規)2018										
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	学修成果物	70%	○	○	○							
	総合的に評価する	30%	○	○	○							
注意事項	なし											
備考	なし											
リンク	URL											

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)														
H020P702		精神医学Ⅱ(Psychiatry II)					心理分野														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員															
選択(心理学コースは必修)	2	3年	福祉健康科学部	後期		氏名 堤 隆 E-mail teuteumi@oita-u.ac.jp 内線 7477															
授業の概要												精神医学では、心の病気の成因や症状、治療に関する内容を学ぶ。本講では、精神疾患別の症状・治療法をみていくことにする。									
具体的な到達目標												DP等の対応(別表参照)									
目標1	精神医学の各論を理解できる						○														
目標2	精神障害の様々な治療法について学ぶことができる						○														
目標3	精神医療の実状やチーム医療について学ぶことができる						○														
目標4																					
目標5																					
目標6																					
目標7																					
目標8																					
目標9																					
目標10																					
授業の内容																					
1 神経症性障害																					
2 ストレス関連障害および身体表現性障害																					
3 摂食障害																					
4 睡眠障害																					
5 パーソナリティ障害																					
6 精神遅滞																					
7 心理的発達障害																					
8 小児期および青年期の精神障害																					
9 精神科薬物療法																					
10 精神療法																					
11 精神科リハビリテーション																					
12 身体療法、環境・社会療法																					
13 精神科医療機関の治療構造および専門病棟																					
14 精神科治療における人権擁護、迷航の重要性																					
15 まとめ																					
ラーニング	A:知識の定着・確認					○	学修成果物の作成					工夫	その他の								
	B:意見の表現・交換																				
	C:応用志向																				
	D:知識の活用・創造																				
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修					テキストを事前に読んでおく (10h)															
	事後学修					教材を用いて復習する (10h)															
教科書	教科書を指定しない																				
参考書	太山保之・上野武治、「学生のための精神医学」(医歯薬出版)2014、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟、新・精神保健福祉士養成講座「精神保健の課題と支援」(中央法規)2018																				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法					割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	学修成果物					70%	○	○	○												
	総合的に評価する					30%	○	○	○												
注意事項	なし																				
備考	なし																				
リンク																					
	URL																				

